

平成26年度事業報告

1. 文化財の研究事業

文化財調査業務、保存処理業務等の中で課題となった問題点や、業務の過程で蓄積されたデータを基礎に、そこから生まれた着想、着眼点を発展させた研究活動や受託研究事業を行っている。

また、他機関との連携協力による研究活動など対外的な研究交流活動も積極的に進め、研究成果の還元は学会、研究会等での発表・報告、講演会等で行っている。

科学研究費助成事業

当研究所に所属する研究員は、科学研究費助成事業の出願が可能であり、積極的に申請して文化財に関する研究活動を進めている。科学研究費は研究者に対する補助金であるが、その管理はその所属機関に任されている。また、助成事業の実施に伴う研究機関の管理等に必要な経費として、主要な科学研究費については直接経費の30%が科学研究費間接経費として別途機関に措置される。

平成26年度科学研究費の継続課題は、科学研究費補助金によるものが1件、学術研究助成基金助成金によるものが7件の合計8件である。

平成26年度に新規に採択された課題は、学術研究助成基金助成金の1件、一部が学術研究助成基金によるもの2件の合計3件である。

(1) 継続研究課題

< 補助金 >

基盤研究 (B) 一般

「出土木製品のマイクロ波加熱凍結乾燥法による保存処理の研究」

平成23～26年度 川本耕三 1,600 千円 (平成26年度)

< 基金 >

基盤研究 (C) 一般

「MRIを用いた水浸出土木材の内部性状の可視化に関する基礎的研究」

平成24～26年度 山田哲也 4,100 千円 (研究期間合計額)

「東アジアにおける小札甲の受容と展開ー日本古代の甲冑を中心としてー」

平成24～26年度 塚本敏夫 4,100 千円 (研究期間合計額)

「日本国内所在・台湾原住民族資料とその来歴の基礎的研究」

平成25～27年度 角南聡一郎 3,800 千円 (研究期間合計額)

「アーカイブにおける短命資料の保存に関する研究」

平成25～27年度 近藤正子 3,400 千円 (研究期間合計額)

「古代アジアにおける組紐製作技法の発生と伝播に関する基礎的研究」

平成25～27年度 小村真理 3,800 千円 (研究期間合計額)

「出土櫛から見た古代東アジアにおける葬制の比較研究」

平成25～27年度 木沢直子 3,900 千円 (研究期間合計額)

若手研究 (B)

「平安期緑釉陶器の色彩学的研究」

平成25～27年度 田中由理 1,500 千円 (研究期間合計額)

(2) 新規研究課題

<基金>

基盤研究(C)一般

「東アジアにおける石材利用技術の地域性と伝播・展開に関する基礎的研究」
平成26～28年度 佐藤亜聖 3,800千円(研究期間合計額)

<一部基金>

基盤研究(B)一般

「出土青銅製文化財の保存処理に使用されたアクリル樹脂の劣化について」
平成26～29年度 植田直見 13,300千円(研究期間合計額)

「日本中世における葬送墓制の総括的研究」
平成26～30年度 狭川真一 11,900千円(研究期間合計額)

※学術研究助成基金助成金は研究期間全体の合計額で採択されているため、単年度の研究費は明記していない。

2. 文化財の調査・整理事業

人文科学研究室

(公財)大和文化財保存会補助事業	奈良県内寺社所有の版木調査
奈良県桜井市 総本山長谷寺	長谷寺文化財調査整理事業
壺阪山南法華寺(奈良県高取町)	古文書翻刻事業
大阪府泉南市	文化財総合調査
大阪府高槻市しろあと歴史資料館	古文書史料目録作成
香川県 札所寺院の史跡指定に係る	甲山寺 ^{こうやまじ} 文化財詳細調査
香川県 札所寺院の史跡指定に係る	志度寺 ^{しどじ} 文化財詳細調査
香川県 札所寺院の史跡指定に係る	本山寺 ^{もとやまじ} 文化財詳細調査
愛媛県	四国へんろ世界文化遺産推進事業における札所 ^{さんかくじ} (三角寺奥之院)の詳細調査(その2)

(公財)大和文化財保存会助成金による奈良県内寺社所有の版木の調査は、元山上千光寺を対象として行い「千光寺の版木」を刊行した。

長谷寺文化財調査整理事業は、古記録古文書・聖教類・法衣繊維製品・石造物などについて実施し、『豊山長谷寺拾遺 第五輯之一 石造品』の編集を行なった。

四国遍路札所寺院の文化財詳細調査は、建造物・石造物・絵画・工芸・彫刻・書跡古文書等を対象とするものである。香川県では志度寺が2年度目の調査を、また甲山寺と本山寺の調査は本年度分を実施完了した。愛媛県では三角寺奥之院の2年度目の調査を実施して完了した。

考古学研究室

香川県善通寺市	旧練兵場遺跡発掘調査（市道拡幅）・整理報告業務
香川県善通寺市	旧練兵場遺跡発掘調査（老人ホーム建設）・整理報告業務
橋本不動産（株）	京都市 ^{はづかいひしかわじょう} 羽束師菱川城跡・長岡京跡発掘調査整理報告書業務
香川県丸亀市	城下町遺跡大手町3・4次調査出土遺物整理事業
和歌山県高野町	高野山奥之院大名墓石塔調査業務

昨年度発掘調査を行った善通寺市旧練兵場遺跡について、発掘調査報告書を作成した。当遺跡については昨年度、近接する老人ホーム建設に関わる発掘調査も担当し、小銅鐸の発見をはじめとして大きな成果を上げた。これについては遺物量が膨大なことから、今年度から2年にわたり整理作業を行い、平成27年度に報告書を刊行予定である。

京都市伏見区羽束師菱川城跡の発掘調査、遺物整理、報告書作成は、平成27年度までの継続事業である。今年度は北側区画の調査を行い、城館濠をはじめとした貴重な遺構を検出した。

平成18年度に当研究所が発掘調査を行った丸亀市城下町遺跡大手町3・4次調査について、未刊行の報告書の刊行に向けて出土遺物整理業務を平成25年度より継続して遂行している。

和歌山県高野町奥之院大名墓石塔調査業務では、石田三成をはじめとした著名な大名墓の石塔について、実測図作成、拓本採取による銘文判読を行った。

記録資料調査修復室

国立歴史民俗博物館（千葉県佐倉市） 所蔵資料の状態調査

平成18年度より開始した国立歴史民俗博物館所蔵資料のコンディション調査を引き続き行ない、平成26年度は民俗資料（「青森県の衣生活用具」）の状態調査を進めた。

保存科学研究室

大阪府立近つ飛鳥博物館（大阪府太子町） 大修羅の保存状態調査

出雲大社（島根県出雲市） 重文出雲大社境内遺跡出土品保存修理に伴う計測

大阪府八尾市教育会 罹災埋蔵文化財の修復方法調査

愛知県名古屋市 ^{なんばんねりべい}名古屋城南蛮練堀保存の基礎検討調査

大修羅の保存処理後、寸法計測や表面状態調査を継続的に行っている（平成9年度からは毎年）。保管環境は良好で、これまでに大きな変形などは見られないが、経年変化による部分的な表面質感や補填材の劣化が観察されている。

出雲大社境内遺跡出土心御柱3本のPEG含浸処理中の変形収縮を防止するため、定期的な寸法計測や重量測定、PEG溶液の濃度測定・検査を行った。

八尾市で多数のコンテナケースが燃え、保管していた土器片にプラスチックが熔着したことから、これを除去する方法を調査・検討した。

名古屋城二之丸南蛮土堀の保存整備のため、現地を調査して保存方法の検討・提案を行った。

奈良市補助金事業 仏教民俗資料の収集調査

奈良市内所在石造文化財の調査（４）

奈良市内における石造物の悉皆調査は 1989 年に報告書が刊行され、重要な石塔資料が多数報告された。これらの石造文化財の詳細な調査は文化財保護や歴史研究に重要な素材を提供するが、個別具体的な調査が実施されたものは少ない。

平成 26 年度は正暦寺にある 3 基の古式宝篋印塔のうち、中央の 1 基について詳細な調査を実施した。本塔は、先学が述べるとおり、基礎表面に二区画の方形枠を作り出し、その中に格狭間を納める。また塔身にも方形枠を設けるなど関東地方の宝篋印塔に大きな影響を与えた優れた塔であることが再認識された。

3. 文化財の分析事業

保存科学研究室

(公財)鹿児島県文化振興財団

	町田堀遺跡・立小野堀遺跡出土鉄製品の分析
山形県	八反遺跡出土遺物の分析
青森県八戸市	白蛇遺跡出土遺物の分析、琥珀の産地同定
鹿児島県喜界町	川尻遺跡・上才遺跡出土琥珀の産地同定
京都大学総合博物館	トキミイラの分析

鹿児島県町田堀遺跡・立小野堀遺跡出土鉄製品の顕微鏡による有機物の観察、蛍光 X 線分析法による付着顔料の分析、樹種同定を行った。

青森県八戸市白蛇遺跡、鹿児島県喜界町川尻遺跡・上才遺跡出土琥珀について赤外分光分析、熱分析等による産地推定を行った。

京都大学総合博物館トキミイラは保存修復の材料・方法を検討するために顕微鏡観察等を行った。

4. 文化財の保存修復事業

伝世資料修復室

菅山寺（滋賀県長浜市）	国指定重要文化財「銅鐘」の保存処理
大分県佐伯市	重要有形民俗文化財「蒲江の漁撈用具」保存処理
沖縄県浦添市	ようどれ石厨子の保存処理
岩手県陸前高田市	登録有形民俗文化財「陸前高田の漁撈用具」保存処理

菅山寺「銅鐘」の保存処理は、2 回の文化庁、滋賀県、長浜市、所蔵者を交えた保存処理専門委員会を行い、修理方針の確認や最終的な仕様を決定し、長浜市余呉町坂口に位置する里坊弘善館に返却・安置することができ事業を終了した。

平成 13 年度から継続して実施していた大分県佐伯市の所蔵する重要有形民俗文化財「蒲江の漁撈用具」保存処理事業は、平成 26 年度を以て研究所へ搬入できる民俗資料の修復は完了した。

沖縄県浦添市のようどれ石厨子の保存処理は、11 月と 3 月に現地に於いて保存処理作業を行ない、8 号石厨子及び 10 号石厨子の石材強化、構造補強補填作業、支持・展示台の作製を行った。

平成25年度に続き岩手県陸前高田市の「陸前高田の漁撈用具」保存処理業務において33点の登録有形民俗文化財を処理した。東日本大震災での被災資料であるため、返却後数点は地元漁師による修復が行われる。

記録資料調査修復室

名古屋大学	古文書の修復
島田市立博物館(静岡県)	古文書の修復
国立歴史民俗博物館(千葉県佐倉市)	筭・煙管額の修復
清水建設株式会社(東京都中央区)	所蔵資料の修復
西宮市立郷土資料館(兵庫県)	西宮市鳥瞰図の修復
河内長野市立図書館(大阪府)	書籍の修復

文書・絵図類の修復事業は漉嵌法^{すきぼめほう}を中心に進めており、名古屋大学、島田市立博物館などの修復を実施した。他に裏打ちによる絵図面や掛軸の修復を行っており、絵図面の修復は需要が増えてきている。

国立歴史民俗博物館では過去に状態調査を行った資料から、展示による解体後の復元作業を伴う筭・煙管額の修復を行った。また、継続的に修復を進めている清水建設株式会社所蔵資料は、儀式道具および漆塗り箱の保存処理を行った。

西宮市立郷土資料館所蔵の額入り大型資料である吉田初三郎画鳥瞰図は、展示による破損のため解体修復を行った。河内長野市は市立図書館所蔵の近代の書籍類の修復を行った。今後酸性紙劣化した書籍類の保存処理の需要が増えてくると思われる。

木器保存研究室

出雲大社(島根県出雲市)	重文出雲大社境内遺跡出土品の保存処理
滋賀県東近江市	重要文化財雪野山古墳出土漆製品の保存修理
愛知県清須市	清州城下町遺跡出土 ^{こけらきょう} 柿経の保存処理
神奈川県茅ヶ崎市	居村遺跡出土木簡の保存処理
佐賀県佐賀市	^{ひがしみょう} 東名遺跡出土木製品の保存処理
熊本県	^{そばたかいづか} 曾畑貝塚出土植物性遺物の保存処理

重要文化財の修理に関しては、平成23年度から5か年事業で出雲大社所蔵の出雲大社境内遺跡出土の心御柱3本(鎌倉時代)他の保存処理を行っており、平成26年度はPEG85%までの含浸を行った。また、東近江市雪野山古墳(古墳時代)出土の^{ゆき}靱や漆製品の保存修理と保管台の作製を行なった。

他に、清州城下町遺跡(室町時代)から出土した柿経や居村遺跡(奈良～平安時代)から出土した木簡、東名遺跡(縄文時代期末)から出土した木製品の保存処理や、平成3～6年度にわたり保存処理を行った曾畑貝塚(縄文時代前期)出土植物性遺物の再修理を行った。

金属器保存研究室

文化庁（島根県立古代出雲歴史博物館保管）	国宝神庭荒神谷遺跡出土青銅製品の保存修理
文化庁（奈良県立橿原考古学研究所附属博物館保管）	国宝藤ノ木古墳出土青銅鏡の保存修理
福島県会津若松市	重要文化財会津大塚山古墳出土品の保存修理
兵庫県姫路市	重要文化財宮山古墳出土金属製品の保存修理
広島県立歴史博物館（広島県福山市）	重要文化財草戸千軒町遺跡出土品保存修理
八代神社（三重県伊勢市）	重要文化財伊勢神島祭祀遺跡出土品の保存修理
（公財）鹿児島県文化振興財団	立小野堀遺跡出土鉄器の保存処理 町田堀遺跡出土鉄器の保存処理

国宝の保存修理は、平成22年度からの継続事業として、平成26年度も島根県神庭荒神谷遺跡（弥生時代）出土銅剣の修理を行った。また、奈良県藤ノ木古墳（古墳時代後期）出土青銅鏡の修理も実施した。

重要文化財では、平成25年度から2か年で福島県会津若松市・会津大塚山古墳（古墳時代前期）出土品の保存修理を実施した。また、兵庫県姫路市・宮山古墳（古墳時代中期）出土品、広島県福山市・草戸千軒町遺跡（鎌倉～室町）出土品、三重県・八代神社保管の伊勢神島祭祀遺跡出土青銅鏡（古墳～平安）などの保存修理も行った。

その他、主要な事業として、鹿児島県・立小野堀遺跡および町田堀遺跡（古墳時代中期）出土鉄刀等について、保存処理と実測図の作成を行った。

土器修復室

文化庁（九州歴史資料館保管）	重要文化財福岡県栗田遺跡祭祀遺構出土品保存修理
兵庫県姫路市	重要文化財宮山古墳出土品保存修理
山形県	重要文化財水木田遺跡出土品保存修理

国指定重要文化財の修理としては、平成23年度から5か年計画で、福岡県・栗田遺跡祭祀遺構出土品の保存修理を行っており、平成26年度は甕棺5点（上甕2点・下甕3点）の修理を実施した。また、兵庫県姫路市・宮山古墳出土須恵器・土師器・埴輪の保存修理を行った。他に山形県・水木田遺跡出土の縄文土器の保存修理を行った。

また当室では三次元計測等の事業も継続して行っており、平成26年度は昨年度から引き続いて国宝島根県荒神谷遺跡出土品の三次元計測及び保管台の改修事業を実施した。

5. 研究会、展覧会、講演会の開催及び開催支援事業

企画展の開催

『元興寺の聖徳太子信仰』

※(宗)元興寺と共催

元興寺の前身である法興寺(飛鳥寺)は聖徳太子の叔父にあたる蘇我馬子により発願建立された。聖徳太子が日本仏教の祖として厚く信仰されるようになると、元興寺も太子建立四十六院のひとつに数えられるようになり、太子堂も建立された。聖徳太子とされる用明天皇の第二皇子、厩戸豊聡耳皇子うまやとのとよとみみが生誕して1440年になるのを記念して、かつて「南都の太子堂」と呼ばれた元興寺に伝えられる二体の聖徳太子像を中心として、その信仰にかかわる諸文化財を展示・公開した。

開催期間 平成26年4月26日(土)～6月1日(日)

開催場所 元興寺法輪館(総合収蔵庫) 入館者数 13,119名

秋季特別展の開催

『元興寺再生』

※(宗)元興寺と共催

当研究所では、平成25年春に企画展「元興寺創建」を開催し、奈良時代元興寺の創建に関する展示を行った。今年度の特別展はこの「元興寺創建」を発展的に継承し、今後継続的に元興寺史全体を俯瞰する研究を行う意図を込めて、鎌倉期元興寺の再生をテーマとして展示を行った。

中世元興寺は、古代寺院としての軀くびきを外し、中世庶民信仰に立脚した新たな信仰の場として発展してゆく。その舞台となったのが極楽坊であり、禅室である。この極楽坊・禅室の成立に際して、大仏様だいぶつようをはじめとする中国南宋起源の新技术が利用されていることはあまり知られていない。

こうした中世元興寺再生に使用された新技术について焦点をあて、建築部材をはじめとした元興寺所蔵資料を中心に展示を行った。

また、国宝元興寺禅室に於いて11月3日に鈴木嘉吉理事による「元興寺の建築に見る技術革新」、11月9日に昨年研究交流協定を締結した中国保国寺古建築博物館の協力のもと招聘した、中国清華大学の郭黛姮教授による「宋元江南地区と日本仏教寺院の文化交流」と題した講演会を開催した。

開催期間 平成26年10月25日(土)～11月9日(日)

開催場所 元興寺法輪館(総合収蔵庫) 入館者数 6,122名

文化講座の開催

『元興寺文化講座』

平成26年	4月23日(水)	修験の道 - 葛城山
	5月21日(水)	二上山 - ナウマン象を追う旧石器時代の人
	6月18日(水)	奈良山と伏見の地 - 女性の陵墓とハニワの里
	7月23日(水)	春日三笠山 - 東大寺造営と四至図
	9月17日(水)	女王卑弥呼・崇神天皇の陵墓
	10月22日(水)	景行天皇・日本武尊の陵墓
	11月19日(水)	仲哀天皇・神功皇后の陵墓
	12月17日(水)	応神天皇・仁徳天皇の陵墓

水野正好所長による文化講座を(宗)元興寺と共催で12月まで8月を除き毎月開催した。各回ともに、20名～30名の熱心な参加者を集め盛況であったが、水野所長の急逝により1月以降は中止となった。

展覧会の開催支援

平成26年度『発掘された日本列島2014』展（文化庁受託事業）

文化庁（記念物課）と開催各館とが主催する『発掘された日本列島』展に関する、展示品の貸借、展示プランの作成、展示パネル、キャプション等作成、展示品の点検・集荷、展示・撤収支援、展示品の返却のほか、開催予定館との連絡調整等の多岐にわたる開催支援業務を平成20年から実施している。

今年度は同展覧会開催20周年記念として、「日本発掘」をテーマに、55遺跡約1300点の資料を展示した。特別史跡三内丸山遺跡出土の土偶、特別史跡吉野ヶ里遺跡出土の勾玉、史跡今城塚古墳出土の埴輪など、多数の著名な遺跡から国宝、重要文化財をはじめとした多様な遺物が展示された。

入館者数についてはのべ202日間の開催で217,309人であった。

※平成26年度開催館、開催期間及び入館者数

東北歴史博物館	平成26年 5月31日～ 7月 9日	9,839人
東京都江戸東京博物館	平成26年 7月26日～ 9月15日	122,551人
堺市博物館	平成26年 9月27日～11月 3日	22,581人
長野市立博物館	平成26年11月15日～12月21日	2,709人
九州国立博物館	平成27年 1月 1日～ 3月 1日	59,629人

奈良大学博物館企画展の資料輸送及び展示作業

奈良大学の企画展『発掘された古代国家』に展示する資料について梱包・輸送・展示を行った。主な展示資料は奈良市平城京出土遺物、大津市山の神遺跡出土遺物、明日香村飛鳥古京出土遺物、太宰府市大宰府政庁・水城出土遺物など約250点である。次年度に撤収・返却業務を行う予定である。

6. 報告書、書籍等の刊行

公益財団法人畠山文化財団助成事業

『元興寺文化財研究所研究報告2014』（1,300冊）の刊行

平成23年度からは公益財団法人畠山文化財団からの助成金を受けて刊行している。

7. 体験活動等

研究、調査成果を還元し、文化財の保護の重要性に対する深い理解と関心を高めることを目的として、博物館実習5校、中学生職場体験3校、施設見学15件を受け入れた。